

陸奥國會津領耶麻郡
示現寺村高五拾石
中光親寄附之託
金倉收納之由
肥塩
寛永廿年
十月五日

保科正之知行无行状

陸奥國會津領耶麻郡
示現寺村高五拾石
如先規寄附之託
全可有收納者也
肥後守^①
寛永廿年
十一月十五日^②

註

① 保科正之 ② 印文「正之」
解説 寛永二十年七月四日、会津藩主となった保科正之が同年十一月十五日、示現寺に対して示現寺村内において寺領五十石をあてがっている。示現寺村は寛文年間（一六六一〜七三）に熱塩村と改められた。永和元年（一三七五）に源翁が示現寺の開山となった際、熱塩村を示現寺村と改めたものを、古名に復したものである。

以上十八通「熱塩加納村史第一巻」より

百石云
天保元年九月十日
示現寺領目録
示現寺領目録
之別取女
浦生飛野牛氏郷
氏郷公御入国之年也

浦生氏郷袖判寺領目録

① (花押)
慈現寺領目録
百石者 於慈現寺門前
以上
天正十八年九月十二日
(付箋)

浦生飛野牛氏郷公
(押紙)
氏郷公御入国之年也
之相形也

註 ① 浦生氏郷花押
解説 浦生氏郷が示現寺に対し、門前において寺領百石を寄進したものである。『新編会津風土記』によると、永和元年（一三七五）、源翁和尚が「慈眼寺」を「示現寺」に改めたとされるが、それより百二十五年後代のごの文書では「滋理寺」と表現している。
なお、文祿三年（一五九四）七月の「浦生氏高目録」では、示現寺 百四十四石八斗四升 内百石示現寺 廿五石斛さし六介 廿石佐野九郎兵衛
示現寺門前 百三十石二斗二升中村総次 と記されている。